

甲斐市議会議会改革特別委員会会議録

1. 開催日時 平成30年11月30日

2. 招集場所 甲斐市役所委員会室A

出席委員（8名）

委員長	清水正二君	副委員長	五味武彦君
	伊藤毅君		金丸幸司君
	滝川美幸君		松井豊君
	有泉庸一郎君		内藤久歳君

議長 長谷部 集 君

欠席委員（1名）

藤原正夫君

傍聴議員（なし）

職務のために出席した者の職氏名

議会事務局長	岩下和也	書記	奥石文明
書記	小澤裕一	書記	中込美智子

議題

- 1 市民参加の議員研修会参加者アンケートの集計結果について
- 2 議員研修会及び市民アンケートを踏まえた議員の意見聴取について
- 3 今後の協議事項について
- 4 市民と議会の対話集会について
- 5 その他

開会 午後 1時30分

○書記（輿石文明君） 改めましてこんにちは。

ただいまから議会改革特別委員会を始めさせていただきます。

初めに委員長挨拶、清水委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長（清水正二君） こんにちは。

ご参集ありがとうございます。

この間、議員研修会ということで議員各位にご協力いただきまして、多数の市民の参加をいただいて盛況に研修会が開催できましたことを改めてお礼を申し上げます。そういった中でアンケート等をいただいたわけですけれども、そのアンケート結果等、きょういろいろ審議をいただきたいというふうに思います。

いろいろと、11月、きょう一日ですね、あとカレンダーも1枚とると12月になりますけれども、定例会を控えているいろいろ気のほうも定例会に向けて忙しいこととは思いますけれども、本日の議会改革特別委員会、そういった形の中でぜひご協力を願いたいと思います。挨拶を終わります。

○書記（輿石文明君） ありがとうございます。

続きまして、議長挨拶、長谷部議長、よろしくお願いいたします。

○議長（長谷部 集君） ご参集、大変お疲れさまでございます。

今、委員長が言ったとおり研修会無事に終わることができました。参加者数におきましても、後ほど報告等ありますけれども、アンケートを集計した数以外にも関係者等を入れますと、そこそこの人数が集まっていたのではないかなというふうに思っております。

ただ、先生のお話の内容がちょっと思った形と違うといいますか、テーマが議員定数についてでしたので、もう少し議員の定数等について話を聞かせていただければなということで、そんなところが残るわけでありましてけれども、いずれにいたしましても研修を受けた後の今後のこの委員会での対応ということが、今回からの課題というふうになってくると思います。

そんな話も本日の委員会の中でご協議をいただくわけでありましてけれども、ぜひともご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。まして挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○書記（輿石文明君） ありがとうございます。

それでは、議事の進行につきましては、清水委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長（清水正二君） ただいまの出席委員は6名です。定足数に達しておりますので、これより議会改革特別委員会を開会いたします。

なお、藤原委員は欠席の連絡がありました。また、有泉委員、金丸委員におきましては遅刻の連絡がありましたので、報告をいたします。

○委員長（清水正二君） 本日の会議を開きます。

それでは、内容に入ります。

内容（1）の市民参加の議員研修会参加者アンケートの集計結果についてを議題といたします。

初めに、事務局の説明を求めます。

興石係長。

○書記（興石文明君） それでは、お手元のアンケート集計結果、こちらをお願いいたします。

市民参加の議員研修会参加者アンケート集計結果についてご説明をいたします。

まず、当日の参加者数ですけれども、市民の方が137名と議員が22名、合計159名の参加者でございました。このうち自治会長につきましては34名出席がありましたので報告いたします。

それでは、アンケートの集計の説明をさせていただきます。

1ページをお願いいたします。

まず、設問①、「性別」ですけれども、「男性」115人、「女性」20名でございました。

次に、設問②、「年齢」ですけれども、「30代」6名、「40代」8名、「50代」16名、「60代」51名、「70代」45名、「80以上」が9人でございました。

次に、設問③になりますけれども、「竜王地区にお住まいの方」が65人と、「敷島」が50人、「双葉」が17人でございました。

次に、設問④、「市議会議員の定数について22人だと知っている」が122名でございました。「知らない」が12人でございます。

次に、設問⑤、「議員定数を決める考え方について」、回答の多い順で説明をいたします。まず、「人口規模」が106人、「財政状況」が51人、「近隣市との比較」が34人、「面積」

が18人、「わからない」が9人、「その他」が5人でございます。その他の回答につきましては、下のほうにありますけれども1から5のとおりでございます。

資料の2ページをお願いいたします。

設問⑥、「今後の議員定数について」、回答の多い順で説明いたします。「現在より減らすべき」が73人、「現在のままでよい」が29人、「わからない」が24人、「現在よりふやさべき」が5人でございます。増員減員した場合の議員定数につきましては、「20人」とお答えになった方が21人、「18人」が12人、「19人」が3人、「21人」が3人、「15人」が2人でございます。以下、記載のとおりでございます。

設問⑦、上記⑥で回答した理由につきましては2ページから4ページまでとなっております。

例えばですけれども1番ですけれども、「活動が見えない」、「何かを考え行動がされていない」というこの回答の方につきましては⑥の回答については減らすべきというようなことの中で、このコメントが提出をされております。

資料の5ページをお願いいたします。

設問⑧、「議員報酬について」、回答の多い順では「増額すべき」が49人、「適当である」が44人、「わからない」が25人、「減額すべき」が14人ございました。増額、減額の場合の報酬月額ですけれども「40万円」とお答えになった方が8人、「50万円」が7人、「45万円」が6人、「30万円」が4人、以下、記載のとおりでございます。

設問⑨、上記⑧で回答した理由について、回答の多い順ですけれども「責任・活動に対して少ないと感じる」が31人、「なり手不足解消のため増額すべき」が29人、「活動に対して多いと感じる」が27人、「その他」が22人、「わからない」が16人でございます。

その他の回答につきましては、資料の5ページ、6ページのとおりでございます。

6ページをお願いします。

設問⑩、「研修の感想について」、回答の多い順では、「満足」が65人、「普通」が30人、「大変満足」が17人、「不満」が1人の順でございました。

資料の7ページ、その他のご意見、ご要望、ご感想などにつきましては、資料の7ページ、8ページのとおりでございます。

なお、集計一覧、こちらA3の横版ですけれども、個々の回答を一覧にしたものでございます。ご参考にしていただきたいと思います。

説明は以上であります。

○委員長（清水正二君） 説明が終わりました。

不明な点などご意見等ございますでしょうか。ただいまの説明の中でご不明なところがありましたら。

説明のほうはよろしいですか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水正二君） それでは、アンケート結果につきまして、各自でまた、時間等限られておりますので、各自で分析等をしていただきまして、今後の基礎資料というふうな形で議論を進める上で参考にさせていただきたいというふうに思います。また、その中で議論をしていきたいというふうに思いますが、よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水正二君） それでは、以上で市民参加の議員研修会参加者アンケートの集計結果についてを終わります。

次に、（２）議員研修会及び市民アンケートを踏まえた議員の意見聴取についてを議題といたします。

前回、江藤先生の講演の後、研修会と市民アンケートを踏まえ、再度、全議員の意見聴取を行うこととしておりましたが、意見聴取の方法について協議したいと思います。

方法といたしましては、前回と同じようにアンケート調査とするか、全員協議会で全員の意見を聞くかといった形の中で、どなたかご意見をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

五味副委員長。

○委員（五味武彦君） まず、アンケートの集計結果ということで、事務局、ご苦労さまでした。これは、ゆっくりまた会派に持ち帰って、会派にもみんな配るのかな。まず、そこをちょっとお聞きしたいと思います。アンケート結果。

○委員長（清水正二君） 興石係長。

○書記（興石文明君） 本日の資料につきましては、会議終了後、メールボックスへ投函いたします。

○委員（五味武彦君） みんなに配るということなんで、これまず一読していただくというのが、まず1つだと思いますし、これを参考に、また前回のアンケートとはまた違った考え方もあるかもしれないので、私の意見とすれば、もう一回アンケート、もうちょっと踏み込んだアンケートをとった上で全員協議会というふうな形の段階のほうがいいのかなと、私自身

はそう思いますけれども。

○委員長（清水正二君） 五味副委員長のほうは、アンケートをとった上で、また全員協議会を開いて意見を聞くという。

○委員（五味武彦君） そうです。

もう一回いいですか。

○委員長（清水正二君） 五味副委員長。

○委員（五味武彦君） 要するに、時間がたっているわけですよ。8月にアンケートをとって、それからこんな研修会をやったと。だから、少しずつ、こう考え方も違っているし、市民の声も結構吸い上げられてきていると思うんです。だから、もう一回考え直すのも、考え直すというか、そのままいくのかどうなのか、アンケートをとるべきかななんて、私は思います。

○委員長（清水正二君） ほかに意見はないでしょうか。

滝川委員、いかがでしょう。

○委員（滝川美幸君） じゃ、今、五味委員もおっしゃったように、今回のこの学習会と、それから市民の皆さんのアンケート調査を踏まえた中で、もう一度、議員がしっかりと考えていかなければいけないということと。

それから、前回の議員を対象のアンケートの中に、やはりしっかりとした意見を出してくださった方が少なかったような気もするんですけども、自由記述のところですね。ああいうものに、やはりこの問題に取り組んでいく以上、議員一人一人がもう少ししっかりと考えなければいけないのかなということ、そのときに感じましたので、ぜひ今回それをやるのであれば、きっとそういう意見を書いていただくようお願いできたらなと思います。

以上です。

○委員長（清水正二君） それでは、伊藤委員いかがですか。

伊藤委員。

○委員（伊藤 毅君） 私はもう全員協議会で、こういう話し合いをもうしてもいいんじゃないかと思います。

○委員長（清水正二君） アンケートはとらないで全員協議会ということですね。はい、わかりました。

松井委員、いかがでしょう。

松井委員。

○委員（松井 豊君） 前にも言ったと思うんだけど、8年前に28から22になっていました。そのときも、それなりの理由があったと思うけれども、減らしたことによってどういふところがよくなったのか、あるいはそうでなかったのかということを中心に客観的に論議する必要があると思うんです。議員は少なければ少ないほうがいいというような変なところもあるし、議員を減らせば報酬上げれば議員のなり手がふえるとか、はっきり言って俗論的なものが多過ぎますし、そもそも自治会連合会からその意見が出されたんですけども、自治会全体で論議したわけじゃなくて、理事のレベルで急に出されて、しかも出席者もそんなにいなく多数決ということで押し切られたという話も聞いていますし、そもそも自治会は、行政の末端組織でもあるんですよ。行政と議会との二代表ということから考えると、その辺はどうなのかなという感じもせんでもない、私は専門家じゃないから、その辺の理論はちょっとわかりませんが。

とにかく前回減らして、そんなにたっていないといっても2期過ぎておりますけれども、やっぱりきちんと減らしたことによって、どういふ、少なくとも議会としての力が増してこなきゃおかしいわけなんですよ、二代表であればね。前に、アピオで研修をしたときに、自治の専門の先生が、「今、二代表なんてとても言えない」と。「一カ四分の一元制だ」と。

○委員長（清水正二君） 松井委員。

○委員（松井 豊君） はい。

○委員長（清水正二君） 自論は。

○委員（松井 豊君） 自論もですが、そういう意見もちょっと聞いてほしいんですがね。

○委員長（清水正二君） あれですけども、そのための改革委員会ということで、それを議論する。先ほど言われました、例えば28から22へ減らしてどうなったというのは、やはり我々の中で、今ここに議会改革ありますけれども、その中でやはりそういった検証なり何なりということ、これを、今までも過去もやってきておるんですね。それでなくて、現在進んでいるのは、その自治会のそれも立場としてもそうですけれども、現実的には我々もその中で議会改革で前年度その結論は出したんですけども、それをまた受けた上でこれをやるということで進んでおりますので、今ここの議題としては、そのアンケートをどういうふうな方法でアンケートをするのか、そのまま、先ほど伊藤委員が言ったように全協で持っているのかという、今後の進め方、方法についてお伺いしているんです。そこら辺のところ、また議論については、この中でやったり、また会派に帰ったり、また全協の中でとかいろいろ方法があると思いますけれども、そういった形のものはこちらでは次の議題のときに、

またしていただきたいと思うんですけれども。

○委員（松井 豊君） 一応、最初五味さんが言ったアンケートと全員協議会というのは一応やってもいいと思います。

○委員長（清水正二君） ご提案があれば、またそういった形の中で、全員協議会は全員の議員間討議というふうな形でもって前提として進めておりますので、それはそれでまた別の議題として持ちたいと思いますので、そのときにはまたご提案いただきたいと思います。

内藤委員。方法について。このアンケートで、前回のようにアンケート調査でもって全議員の意見を聞くか、それかまた、全協を開いて各自のまた議員の意見を聞くか、どういうふうな形で全議員のそういった意見を集約していくかというような、集約というか、意見を聞いていくかというふうな内容なんですけれども。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） この間の研修を受けて、またいろいろその定数と報酬に関する捉え方というの、また考え方も変わってくる人もいますので、同じ基準でまたもう一回アンケートをやって、そして前回のことを比較して、そこがどういうふうに変ったかということのをベースにして、次の段階に行くということも、まあいいかなと。それをもって、今度、全協なりを開いて、前はこうだったと、2回目やったらこうだと、こういうふうに変っている、そこを集約して詰めていくということも1つの方法かなとは思いますが。

○委員長（清水正二君） ありがとうございます。

金丸委員。

○委員（金丸幸司君） 途中からですけれども。おくれて申しわけないです。

先ほども内藤委員が言ったとおり、1回、講師の先生のお話を伺って、議員の皆さんの中では考えが変わったというか、こういうふうにしていかなきゃいけないなんていう議員も中にはいるのではないかなと思うので、もう一回、さっき言ったアンケートなり、または全協なりでも開いて、そこに意見、皆さんの考えというか、集約していくということは、私は1つ大事な、そういった進め方でもいいのではないかなというふうに思います。

○委員長（清水正二君） ありがとうございます。

それでは、皆さんのご意見の中で、五味委員の言われたアンケートをもう一回とり直していくという形の方が5名おられますので、そんな形で進めていきたいと思います。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） それでは、先ほど内藤委員のほうから出ましたアンケートの内容なんですけれども、どういうふうな形で行くかということをご協議願いたいと思います。

内藤委員のほうから提案がありました、前回と同様で行くか、行ったほうが良いという意見と、また内容を少し変えてするか、そこら辺のご協議を願いたいと思うんですけれども。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 私は、前回と同じ内容でやらないと比較が。そこらがどこがどういうふうに変ったかという比較ができないので、同じ内容でやってその変化を見て、そして、そういう中で改革として意見をある程度まとめて全協で諮っていくということのほうが。ここでいろいろまた質問項目変えちゃうと比較ができないので、私は同じ内容で再度やって、同じ結果が出るのか、変化があるのか。そこをベースにして、ここから進めていくということがいいのかなと思います。

以上です。

○委員長（清水正二君） いかがでしょう。今、内藤委員のほうから比較ということがあるので、前回と同じ内容でもう一度議員からアンケートをとりたいというふうな提案がありましたけれども。

五味副委員長、いかがですか。

○委員（五味武彦君） そういう考え方でいいと思います。ただ、自由記載というのは前回どのくらいあったか、ちょっとわからないけれども、そんなに自由記載を書いた人、余りいなかったんじゃないかなと思うんです。この辺もうちょっと具体的に書いていただけるような方法があれば。上のほうはいいです。1、2は構わないんですけれども、3になったときに自由の意見ですね、この辺がもうちょっと具体的に書いていただけるような方法があれば、なおありがたいなと思うんですけれども。

〔「その理由としての意見というふうな形ですよ」と呼ぶ者あり〕

○委員（五味武彦君） そうですね。

○委員長（清水正二君） やっぱり我々も理論武装していく上でも、そのものがここにいろいろな理論武装をしていく上で、いろんな考えを知りたいというところもありますよ。何かそこら辺のところ、この一番下のところで、定数及び報酬に関する自由記載ってあるんですけれども。必須として何らかの形で全員に記述していただくような形を。

五味委員。

○委員（五味武彦君） 今、調べてもらったら7人無記載だったんですよ。その方の意見も必ず書いてくださいというのは、余り縛りで申しわけないんですけども、やっぱり個々の議員ですから、それぞれの意見はお持ちだと思うんで、これは必ず書いていただけるような方法がいいのかなと思います。前と同じ書き方でも構わないですけども、その方は。

○委員長（清水正二君） 今回研修も聞いた上で、当然そういうものは個々にあるべきだと思うんですけども、議長、いかがですか。

○議長（長谷部 集君） 私の立場で意見を言っているのかどうか、ちょっとわからないですけども、おっしゃるとおり、やっぱり前回との比較がまず第一なんで、そこはやっぱりしなきゃいけないかなと思います。自由記載に関しては、そこは自由記載という書き方じゃなくて、必ず何か一言書けよという内容に持っていくのがいいかなと思うのと、あとそうは言っても、五味副委員長が言ったように、あと一步踏み込んだ内容というのはやっぱり今回はもう2回目なんでしていきたいなということも考えられた場合は、前回と比較があるので、この質問はこのまま。プラスの質問として違う項目を聞くということはあるかなというふうに思います。

もう一つは、今回また一步踏み込んだということでいえば、前回無記名だったものを今回は記名にするのかというようなことも検討の1つかなというふうに思います。

以上です。

○委員長（清水正二君） ありがとうございます。

ちょっと強引的に議長の意見を求めたんですけども、そういった中で、今、議長から提案がありました、前回は無記名であったということですね。これを個々の責任において記名にするかどうかというところを、まずそこからちょっと皆さんのご意見をお聞かせいただきたいと思うんですけども。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時55分

再開 午後 2時18分

○委員長（清水正二君） 会議を再開いたします。

五味副委員長。

○委員（五味武彦君） 1つ、ちょっとアバウトなところがあるのではっきりしたいところがあるんだけど、その定数（1）定数についての中で、もう一つ、1、2の後に入れるべきものもあるんじゃないかなということです。設問3を4にしてということになると思うんですけども。新しい3という項目で、現状の35万、月額35万の報酬でも定数を減らしますか、減らしませんかと、減らしてもいいですかという問いかな。そういう項目では、直接的にもうぶつけるような、それで「はい」「いいえ」か。そういう議員もいるかもしれないので、今までのアンケートだと、そのニュアンスがちょっと伝わってこない形も出てくると思うんで、あえてそこでちょっと提案をさせていただきたいと思います。

○委員長（清水正二君） 五味委員のほうから、議員定数についての設問の中で、1、2の間にもう一つの現状の報酬の中でも削減するというふうな設問をしたらどうかという提案がありましたけれども、これでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） はい。では、そのように設問を加えさせていただきます。

もう一点、このアンケートに記名にするか、前のように無記名にするかというところをお諮りしたいと思います。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） それについては、あとそのものを、改革の委員会の運営の仕方にあると思うんだけど。アンケートだから無記名で、俺はいいと思うんです。その後、全員協議会でもしやるのであれば、そこでどういう発言をするかというのは、自分がアンケートした内容について議論をするんだから、誰がどういう考えを持っているかとみんながわかるわけじゃないですか。俺は無記名でやっておいて、そのときにみんなのときに全員協議会を開いて、そこで意見を述べるというほうのほうが、かえっていいんじゃないかなと思います。

もし、やらんであれば記名でも構わないですけども、これはもうそうであれば、やっぱりアンケート1回とって研修を開いて、その後、確認をして、そのときにやっぱりその成果として、みんなでここでそのことについて議論をするということもいいかなと。今、さっきにもフリートークの中で出たような意見もいっぱい出てくると思うんですよ。だから、そういうことも必要かなと思うんで、その辺のところもちょっと委員長のほうにまとめてもらえば。

○委員長（清水正二君） ほかにご意見ありますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水正二君） なければ、内藤委員のほうから、また前回と同じように無記名でのアンケートというふうな提案が出ていましたけれども、それでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） では、そのようにしたいと思います。

そういたしますけれども、アンケート調査という形の中で行うというふうなことで進めていきたいと思います。

以上で、議員研修会及び市民アンケートを踏まえた議員の意見聴取についてを終わります。

次に、（3）の今後の協議事項についてを議題といたします。

議員定数、報酬の検討に必要な協議事項、協議項目について、先日の江藤先生の研修会の内容を踏まえ、今後、協議が必要な項目がありましたら、どなたかご意見をいただきたいと思います。

松井委員。

○委員（松井 豊君） さっきもちょっと出しましたけれども、8年前、2期前に28から22に、ちょうど僕が出たときかな。それによって6人も減っていますから、どういう改革がなされたのか、市民にとってもよかったか悪かったか、あるいは議会にとってどうだったか。これ、やっぱり一応検証はしてほしいんですね、あと客観的に。数減らして、それでよりよくなるのであれば、それはそれで理屈も通りますし、私も。

○委員長（清水正二君） 松井委員、仮にそうした場合に検証方法というのは、議会としてどういうふうな形をお考えですか。

○委員（松井 豊君） そうですね、そうなるもまた。

○委員長（清水正二君） これは検証だから、議会側が検証をしないことには検証にはならないと思うんですが。

○委員（松井 豊君） まあ、そうですね。だから、ここでまた全員集めてっていうわけにはいかんだから、ここでとりあえず、ある程度、意見をやりとりはしていく必要がある。私もちょっと、きちっと理論的な整理ができていないけれども。一応、8年前のその結果については、それなりにある程度理解できるような合理的な総括がないと。

○委員長（清水正二君） すみません。大変、遮っているわけじゃないんですけども。そのことについては、これを始める前にも定数削減のとき、合併のときから、合併して上限が30になって、それで28にしたと。28から22にしたという、確たる、いわゆる理論的なものも確たる根拠もないわけです。例えば近隣がそうであるとか、そういった形でなっていると

いう報告は、この場でも受けましたし、それによって、今現在22人でやっているわけです。だから、それについて我々は、今ここに定数削減の中で22人で我々はそれが妥当であるのか、それは削減していいのかという形の中で、今ここで議論をしていきたいと思うんです。検証については、また違った角度になろうかと思うんですけれども。もう既にその28人から22に進んで、ここへ来ていますので。その時点の、28から22になったときも、そういった理論武装というのは現実的にはそういう形のものはないんですけども。あれば我々もそれを踏み台としていろいろな形でやるんですけれども。

五味委員。

○委員（五味武彦君） 今の検証ですけれども、我々その22になったときからの参加になってくるわけです。そうするとその検証と言ったって、28の状況はわからないわけです。ましてや、それが数値で出てくるわけでもない。数値で言うなら35万で22名と、これしか出てこないんですよ。その前の28で二十何万か。そういう、もしニュアンスで探るのであれば、歴代の4期、5期やった方にどういふもんかなとアバウトで聞くよりほかはないのかなど。じゃ、それをあえて検証というのはちょっと。

○委員長（清水正二君） ちょっとその議論はいろいろまた後戻りしたりするんで、とりあえず今の段階のこの議事の中でもって、松井委員ちょっと進めていただきたいと思います。

○委員（松井 豊君） だから、二代表制に立脚してどうなのかということだと思うんです。やっぱり市と対抗して、その政策を提言したり、あるいは。

○委員長（清水正二君） すみません。誤解なさっているかもしれない。アンケートの内容とどうか、研修会の内容を踏まえた中での今後の協議事項ですよ。

○書記（輿石文明君） 今後の協議事項について、松井委員は22人の検証をやったらどうかということを行っています。

松井委員も五味委員も22人になってからだから比較ができないと言っています。

○委員長（清水正二君） ちょっと暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時27分

再開 午後 2時27分

○委員長（清水正二君） 再開いたします。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 検証といっても、結局、改選前に特別委員会で、次の議会でこの定数問題についてやるって、もう決定をしているから、もうそこからまたもとへ戻ってどうのこうのと言っても、なかなか大変だと思うんですよ。だから、それは過去、議会改革特別委員会というのはずっと継続しているので、もう定数、報酬の問題というのはいろいろ議論をしてきた。だから、そういう経過があるから、ここでまたもとへ戻って、それ引っ張りだしてどうのこうのと言っても、それは難しい問題だし。だから、今言うように、もう22で決定して、これをどうするかという議論なわけじゃないですか、ね。減らすのか、減らさないのかという、その議論だから、多少、我々もその経過の中でわかることは全体の意見の中でまた戻って、あれすると思うんだけど。

もう一つは、今までは定数というのは地方自治法で人口に応じて全部決まっていたんですよ。それが自分ところで決められるように法律も変わったっちゃうわけ。そういう経過があるから、そこが一番大きな問題で、多分そこが一番ポイントだったと思うのね。

だから、今まで合併してそのときは定数が30で、それは1つの理由があったというわけ。合併当時は54人いて、そして、そのときに新しい市が1回目の選挙するときには定数は30だと。5万から10万の間かな、定数30だったんですよ。そこを、じゃ、ここで選挙するといつて28で2減らして選挙をしたんです。そこまでは明確な理由がある。28から22、6減するといったのは、そこはちょっと今は記憶、どうしてそうなったかという記憶がないんだけど、それはいわゆる人口規模とか、全体の人数とか、全国的な、そういうものを勘案しながら、じゃ、もうこのくらいがいいんじゃないかという判断の中で22で2期やってきたという経過だと思うんですよ。

だから、そういうことを踏まえると、一応30から減らしたって、ある程度の批判する理由とかそういうものもその辺にあるのかなというふうに思って22に決まったと。改革でそういう結論を出して、ここでやるんだから、そこでもって今度は進めていけば、特別そのもとへ戻る必要もないかなという気がしますけれども。

以上です。

○委員長（清水正二君） 松井委員のほうから、先ほど検証という中での今後の課題という中でもって意見をいただきましたけれども、内藤委員のほうからは、今の定数の中の議論というふうな形でもって、今あるわけですけども。どういう形で行くか、ちょっとここで皆さんの意見というか、どっちがとっていくかということでもって賛否とりたいと思いますけれ

どもよろしいですか。

松井委員の言われるように、もう一回その検証をしていくのか、内藤委員の言われる現状の中ですから、今この中でもって進めていくという形ですね。

金丸委員。

○委員（金丸幸司君） 私、昔のその定数の削減がどうしたかということ、今ちょっと内藤委員のほうから聞いて、そこに明確な、こうという、だからそのやってきたものがなくて、いわゆる検証するにもたたき台みたいなものが今ない状態だと思うんですね。それで、さっき言ったみたいに、過去に戻って、そのたたき台がない中を議論するよりも、これからどうしていくというのが私は大事なかなというふうに思うんですね。ですので、22と改めてというよりも、これからどうしていくんだというほうが建設的かなと私は思います。

○委員長（清水正二君） 一応、松井委員の言われる検証をしてというふうな形に同意の方。

○委員（松井 豊君） 検証については、そういう経緯について内藤さんの話も聞きました。とにかく私が一番心配しているのは、今の件もだけれども、二元代表ということを我々は市民との対話の中で、しばしば言ってきていますね。どんどん減らして行って、その二元代表が果たして機能していくのかという、そう少数精鋭と言えれば聞こえは。

○委員長（清水正二君） 松井委員、それ基本的な問題ですので。

○委員（松井 豊君） いや、基本的だから二元代表。

○委員長（清水正二君） いえ、今、議会をやっていること自体が二元代表制ですから、それは基本的な問題ですから、それから行くのはもっと違う時点の話になると思いますので、それは今のこの議会改革の中でそれをやっていたら、1日あっても二日あっても足りんと思うんです。

では、内藤委員の現状の中でそうやって今の形で進めていったほうが良いという形のご賛同の方。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水正二君） はい。ということで進めますので、ぜひその点で議事の進行にご協力願いたいと思います。

有泉委員。

○委員（有泉庸一郎君） 今ので行きます。

松井委員の言うことも、ただ議論の中でその定数の話をするときには、やっぱり松井委員が言ったことだって当然出てくるわけですよ、そういう言い方というのが。だから、何も、

どうしてもその考え方をそんなにこだわるというんじゃないくて、そういうものを踏まえた中でいろいろな意見が出てきた中でやっぱり集約していかなきゃいけないと思うんだよね。

だから、前も、俺、最初に言ったように、早く、俺は全員協議会はとにかくやるべきだと。アンケートなんかとってたって同じことでしょう、今までやった考えも何も聞いたからといたって、江藤先生の話聞いたからといたって、自分の考えなんていうのはそんなには変わらないと思うんです。だから、そうであれば、僕は早目に全員協議会を開いて全員の意見を、そうすればいろいろな松井委員の意見もある、内藤委員の意見もある、もちろん自分の意見もあるし、そういうものをやっぱり集約していくべきだと僕は思います。

○委員長（清水正二君） 五味副委員長。

○委員（五味武彦君） 今、有泉委員の話も聞きましたけれども、もう既にアンケートをとって全員協議会にかけるという結論出てきているわけですよ。今そのお話をさせていただいても、ちょっとまたもとへ戻っちゃうような話があるんで、それは頭の中に入れながらの行動でいいんじゃないですか。

以上です。

○委員長（清水正二君） 議会改革特別委員会として、ある程度の委員の意見の集約というものを出した上で、また全員協議会を開いて全員の意見を聞くという形で、先ほど決定をみましたので、そういう形で進めていきたいとします。

そのほかに。

○委員（滝川美幸君） 2月に、あと一度、市民との議会の対話集会しますよね。そこでも、やはり議員定数、報酬に対する意見交換会の中で参加者を対象にアンケート調査を実施するとありますね。市民の方のここでいただいたアンケートの調査というのはどこに活かしていくことになりますか。

〔「どこに活かしていくか」と呼ぶ者あり〕

〔「意見集約」と呼ぶ者あり〕

〔「意見集約があるからね」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時36分

再開 午後 2時39分

○委員長（清水正二君） 会議を再開いたします。

アンケートについて、先ほど滝川委員のほうからありましたけれども、それはまた今後の意見集約なり、そういったものに生かしていくという形の中で進めてまいります。

ほかに今後の協議といたしまして、ご意見等ございますか。

五味副委員長。

○委員（五味武彦君） 今後の協議ということなんですけれども、もう既に一応予定として2月7日に対話集会を開くと、次の課題になるかもしれないけれども、それに対しての準備ということを考えていくと、もう一回アンケートを見た結果、この議会改革の中でももむべきものが出てくる、同じ質問が来ると思うんです。要するに批判ですね。それに対してどう受けるか、どう考えるかというのも、ある程度、この議会改革の中でまとめる。もちろん個人が答えても構わないんですけれどもね。だから、そういう機会もやっぱり必要じゃないかなと思うんですよ。

○委員長（清水正二君） そうですね。今、五味委員の言われたその対話集会が、そういった質問が、想定問答というか、そういった形の中のものもまたこれをやっていかなきゃいけない。

2月ですから、定例会終わって、そういった話の中で1月のときに、また対話集会の開催の要綱の決定というふうな中で、その中で含めて、また1回、これについては前の対話集会のときもリハーサルという形の中のものを取りましたんで、またそれは、そのときにどういふふうにするかという形でとっていきたいと思うんですけれども。

○委員（五味武彦君） もう一ついいですか。この2月7日というのは、どこまで公表していましたっけ。議会だよりまで入ってたっけ。入ってないですね。というのは、もし公表してなければ、この2月7日にこだわることもないかなと。要するに少しずつおくらせても、ちゃんとすべきは市民に対して対話集会の徹底的な対策を練ることも必要かなとは思いますが。それは普通でいいよということであれば構わないんですけれども、そういう心構えもしとかなきゃまずいかなと思うんですけれども。

○委員長（清水正二君） 興石係長。

○書記（興石文明君） 2月7日の開催については、11月16日の研修会の席上で公表をしておりますので変更はできません。

○委員長（清水正二君） ですから、その間に、当然今までも対話集会のリハーサルというふ

うな話があったんで、それをどうするかというふうな形、またこれはこういう形で練っていく。私は、でも個々の意見もあってしかりかなとは思っております。

松井委員。

○委員（松井 豊君） 対話集会については、今までやっていた対話集会と同じような配置と
いうか、そういうイメージを僕は持っていたんです。一応そんなこと。

○委員長（清水正二君） そのとおりでございます。

今、五味委員のほうからも提案がありましたけれども、対話集会に向けてリハーサル等、
その機会を設けるというふうな形で、今後の進め方としていきたいと思っておりますがよろしいで
すか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） ほかに。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時43分

再開 午後 2時44分

○委員長（清水正二君） 会議を再開いたします。

それでは、今後の協議事項として確認という形の中で、内藤委員が言われた、前のもので
28人とかのじゃなくて現在の22人の中で、これからその常任委員会のあり方であるとか、
そういった中のものの議論をしていくということと、それからアンケートですね、進め方、
それから、対話集会というふうな形の中で今後進めていきたいというふうに思いますが、こ
れでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） それでは、次回以降そのように進めたいと思います。

以上で、今後の協議事項についてを終わります。

次に、（４）市民と議会の対話集会についてを議題といたします。

先ほどもちょっと触れてはおるんですけれども、資料の1ページをお願いいたします。

1の開催日時から4の当日の議題までは、ほぼ決定しておりますが、5の当日の進め方、
対話集会の進行内容を決めていきたいと思っておりますが、どなたかご意見をお願いいたします。

金丸委員。

○委員（金丸幸司君） ちょっと確認なんですけれども、前回、各担当が決まって運営したんですけれども、その担当じゃない方が行って、たしか敷島のやる場合は前回やった方じゃなくて、担当しなかった方が変わって今度は会派別になっていくと、ちょっとその辺の確認をしたいと思うんです。

○委員長（清水正二君） 担当はもう既に各会派から出していただいて、これはもう前回の研修会の係でない方が、今度の対話集会の係になるという形で、それは決定しております。

興石係長。

○書記（興石文明君） 役割分担については、今、委員長が説明したとおり、受付係だとか会場設営係というのは担当制でやりますけれども、当然、議会と市民の対話集会ですので、全議員が市民を相手に意見交換をするという流れになりますので、受付だとかアンケートの係だとかそういった係は設けますけれども、意見交換会が始まれば22対市民で意見交換となりますので、よろしくをお願いします。

○委員長（清水正二君） 五味副委員長。

○委員（五味武彦君） ここのホールでやったことは、たしか4年前でしたっけ。ここの公民館でやった覚えがあるんですよ、たしか対話集会という形で。そのときは全員が前のほうに座るなりとか、あのときスライドをやったかどうかは忘れちゃったけれども、いろんな活発な意見が出てきたわけです。そうすると、ある程度コーディネーター的な人がちゃんとしていかないと、市民がクエスチョン出した、アンサーするとか、この辺の運びがぐちゃぐちゃしちゃうと、何だ議会はというふうなところがあるんで、この辺はしっかりしたり、ここはこの人が答えるべきだとかということもやっぱりしておかないとスムーズにいかない部分が出てくると思うんですよ。

○委員長（清水正二君） 役割としては、当然、前と同じように司会者がいて、司会者から議員と市民との意見の進行をしていくというふうな形にはなると思いますけれども。

○委員（五味武彦君） 竜王班については、それはあくまでスタッフの一員、お手伝いだというニュアンスだから、意見を述べるほうは全員で述べましょうよということら辺は確実にしておかないと、要は、俺、当番じゃないからいいよとかいうことになっちゃうと困るよなど。この辺の部分は頭に入れておかないと。

○委員長（清水正二君） 議会改革の定数削減と報酬というふうな形でもって、これやりますけれども、ほかにもまだ質問が来るかもしれませんけれども。それはそれで、各委員会の中

でまたそれは回答を出していただきたいというふうに思いますけれども。定数削減と報酬については受けたほうのその交通整理をどういうふうにしていくかという問題ですよ。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） 今までの対話集会というのは、一応その会場の当番があつて司会者がいてという役割分担だったけど、今回は一応、議会改革特別委員会がまずいて、そのほかには議員が全体で、この前と今までの市民課というように所管があつて、今回は我々のことだから所管はないんだけど、所管の委員長、それから所管の委員ということが、いわゆる回答をしたと。その中で、一応、基本的には議会改革の定数と報酬の問題といろいろの問題のやりとりについては、基本的にはこの特別委員会が答えるというそういうスタンスをとっておかんと、てんでばらばらで、司会者が、じゃ、手を挙げたら誰かが回答できる人がいるという、そういう距離感でやっておかんと、俺はうまくないと思うんだ。だから、その辺のところを、今、事務局どう考えているかわからないけれども、俺はそう思っているんですよ。当然22人でやるんだけど、改革の人たちが中心になって、まず自分たちが答えると。

その前に、結局さっきも言ったようにアンケートをとって、そして、すり合わせをして前回との比較をして、全協を開いて、みんなの意見を聞いて、それで、ある程度、この研修を終えた上での甲斐市議会としての基本的な考え方を集約して、それでこれに臨むということだよ。

そうすると、全協を開いて、いろいろ意見を聞いて、それをまとめれば、みんなそのことは共通理解を持っているわけです。そういう中で、2月7日については改革が中心になってやると。それ以上に、回答できる人がいたら回答してもらおうと、そういう基本的なことをやっておかんと、22人みんなでやるからと言ってもなかなか難しいと思うんだ。その辺のところを整理しておいたほうがいいと思います。

○委員長（清水正二君） わかりました。多分、五味委員の、私がちょっと勘違いをしたんで、同様の意見だと思うんですが。

今、内藤委員の言われるような対話集会の対応として、議会改革の委員がそういう形の中で行っていくという進め方でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） では、そのように進めたいと思いますけれども。

ほかに、この進行内容についてご意見等がありましたら。

五味副委員長。

○委員（五味武彦君） さっき聞き忘れたんだけど、敷島でやったときに、自治会の人が35名だったけ、結構来ていたよと。

〔「34名」と呼ぶ者あり〕

○委員（五味武彦君） 30名以上の方が来ていたということなんだけど、あれはその自治会の連合会を通して誘いがあったのか。ちょっとそれわかりますか。要するに、今度は案内のほうの話になってくるんだけど、前回は。

○委員長（清水正二君） あれは自治会連合会というか、自治会長さんに全部送りました。

○委員（五味武彦君） 個々に自治会長に送ったんだっけ。

○委員長（清水正二君） 郵送費のお金かけて。

○委員（五味武彦君） あ、そうだったか。

○委員長（清水正二君） 予算的にあるということ。

○委員（五味武彦君） じゃ、今回も同じような方法でやるのかどうか、今度も案内の方法とかそういったことも一応考えないと。

○委員長（清水正二君） それはどうでしょう、皆さんの意見を。

今、五味委員のほうから、自治会長さんに対話集会に対して、研修会と同じように案内を送るかとかという提案がありましたけれども、この点についていかがでしょうか。

内藤委員。

○委員（内藤久歳君） そういう案内を出してて、結局、集約する的那种なその場だと思うんだね。できれば同じスタイルでやって、前回参加した人にも来てもらっていろいろ意見があったら聞いてもらうということのほうが、その流れとしてはいいような気がしますけれども。

というのは、2月7日にこれについて、もう一回対話集会やりますよとアナウンスしてあるから、それに対して何のあれもないというのはうまくないし、実質34人という方が来てくれるということは、それなりに意義があることだと思うんだよね。136の34だから割合にしてみたら、そんな割合でもないけれども、それやったから、ある程度、出席してくれたんじゃないかなという部分もあるから、これは多少費用がかかるけれども、俺はそういった手法をとって呼びかけたほうがいいような気がします。

以上です。

○委員長（清水正二君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 2時55分

再開 午後 2時55分

○委員長（清水正二君） 再開いたします。

それでは、今、五味委員と内藤委員のほうからそういう提案がありましたけれども、発送するということによろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） はい。そのようにいたします。

興石係長。

○書記（興石文明君） 確認いたします。

まず、当日の進め方のほうは、議員定数、報酬の検討内容の中間報告をまずして、市民の方と意見交換を行うという形で行きたいと思います。また、先ほど出た区長さんの案内ですが、同じように136人、郵送で案内を出すようにいたします。

以上です。

○委員長（清水正二君） 今、事務局のほうから内容ですね、市民との対話集会の進め方の内容について説明がありましたけれども、このような形によろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） それでは、以上で市民と議会の対話集会についてを終わりたいと思います。

続いて、（5）のその他を行います。

まず、次回の予定ですが。

興石係長。

○書記（興石文明君） それでは、その他ですけれども、先ほどアンケートと全員協議会のほうを開催するというので決定をされましたので、アンケートにつきましては定例会中に配付をして回収をさせていただきたいと思います。

また、全員協議会のほうですけれども、日程的にあれですけれども、12月の定例会が19日最終日の予定です。その後、本会議終了後、全員協議会を開催するというようなことも可能ですけれども、その辺、全協の日程等をご協議いただければと思います。

○委員長（清水正二君） 内藤委員。

○委員（内藤久歳君） アンケートをとるんだよね、会期中に。そうすると、最終日にその集計もしなきゃならないよね。すり合わせで前回こうだったけれども今回こういうのが出たよという、そのあれもしなきゃ、日程的にとても事務局も対応できないでしょう。大丈夫。いってならそれでいいんだけども。

○書記（興石文明君） 例えばですけれども、10日に配付をして14日に回収ができれば、日程的には19日で間に合うんですけれども、皆さん、全員が集まったときにじゃなくて21日でいいということであれば、21日に予定したいと思います。

〔「そのほうがいいな」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 3時00分

再開 午後 3時01分

○委員長（清水正二君） 再開いたします。

今後の日程について、もう一度、興石係長のほうから説明をお願いします。

○書記（興石文明君） 先ほど議員のアンケートを行うことと全員協議会を開催することが決定しておりますので、12月19日に議会改革特別委員会を開催しまして、アンケートのほうの集計を報告させていただきます。また、アンケートの調査のほうにつきましては12月10日に配付をしまして14日締め切りというような形の中で集計をさせていただきます。19日以降ですけれども、21日に全員協議会の開催を予定したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員長（清水正二君） 今後の日程については報告のとおりであります。

ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） 委員のほうから、その他なければ。

五味副委員長。

○委員（五味武彦君） 1月の予定もアバウト決めておかないとまずいかなと思うんですよ。21日に全協開いたその結果をまとめなきゃならない。それに対して、今度是对話集会をどうするかということをやらなきゃいけないので。21日の全協の考え方をどうやって1つに

まとめていくか。この辺の機会もやっぱり1月10日とかそういったときにまとめないとま
ずいかなと思うんですが、いかがですか。

○委員長（清水正二君） 興石係長。

○書記（興石文明君） 1月の予定につきましては、議会の予定等をまた確認いたしまして、
19日の改革のときに発表をさせていただきたいと思います。

○委員長（清水正二君） それでよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） ほかに、委員のほうからございますか。

〔発言する者なし〕

○委員長（清水正二君） なければ、議長のほうから何かありますか。

〔「ないです」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） なければ、事務局、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（清水正二君） なければ、その他を終了いたします。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

これもちまして、議会改革特別委員会を閉会といたします。

ご苦労さまでした。

閉会 午後 3時04分